

*** 平成 28 年度 たかだ竹あかり写真コンテスト 結果 ***

優秀賞 「蒼^{あお}の空^{そら}に光^{ひか}る」 竹田^{たけだ} 豊和^{とよかず} (軽井川)

この写真は竹あかりの夜の美しさを最も捉えている写真だと思いました。そこに迫ってくるかのような竹の光の疾走感は、ミステリアスな魅力を放つとても素晴らしい写真だと思いました。

入 選 「竹^{たけ}あかりと秋^{あき}ほたる」 小林^{こばやし} 敬季^{ひろき} (榎原町)

まず思ったことは、構図がとても分かりやすく、安定感を感じました。色彩も暖かい温もりを感じさせる素晴らしい写真だと思います。

入 選 「暗^あ夜^んのあかり」 白井^{しらい} ヨツイ (西山町)

一面が燃えているかのような、火の迫力を感じました。一方で構図は完成されていて、女性の存在が写真を更に美しく写していると感じました。

*** 平成 28 年度 たかだ竹あかり俳句コンテスト 結果 ***

優秀賞 「行く秋に 亡き親偲ぶ 竹あかり」 金子 三千江 (新 道)

入 選 「竹あかり たかだの心 熱く燃ゆ」 植木 元 (半 田)

入 選 「故き夜の 月をば待たん 竹あかり」 栗林 文英 (東本町)

たくさんの応募があり、中にはお一人 4 句という方もいらっしゃいました。

俳句には、季語を入れるのが基本です。また、わずか 17 文字の短詩ですから、余情が豊かでない、随想のような長い文章にはかないません。

優秀賞の金子さんの句は、「行く秋に亡き親偲ぶ」と「竹あかり」がそれぞれに情景を膨らませ、その情景が響き合ってさらにいろいろなものを想像させ、考えさせてくれます。

入選のお二方の句も、二句一章の構成で、二つの情景が響き合って豊かな余情を感じさせます。

「竹あかり」を説明しているような句が多かったようです。